

科目「現代の国語」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

| 教科(科目) | 現代の国語 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科 | 2学年・全科 |
|--------|--------------------------------------|-----|-----|-------|--------|
| 使用教科書 | 『新編現代の国語』（東京書籍） | | | | |
| 副教材等 | 『国語必携 ライトパーフェクト演習』『常用漢字ダブルクリア』（尚文出版） | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-----------|--|
| 科目の特徴 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。 |
| 学習の到達目標 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができ、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 |
| 取得可能な資格 | 特記なし。 |
| 授業を受ける心構え | 授業には意欲的・積極的に取り組み、教科書やノート類の忘れ物をしないこと。また提出物は、必ず期限を守って出すこと |

2. 学習指導計画

| 月 | 学習内容(目次の項目) | 学習活動・ねらい | 実習・演習 | その他・考查 |
|---------------------|---|---|--------------|---|
| 4 5 6 7 | ルリボシカミキリの青 〈言葉と生活：話す・聞く〉 水の東西 〈言葉と生活：読む〉 | ・筆者の熱中したことを表現に即して捉え、理解する。 ・本文の内容を踏まえて、自分自身の興味や関心について考え、スピーチする。 ・日本と西洋の対比の例から、文化や考え方の違いを理解する。 ・日本文化について、考えたことを発表する。 | 一斉授業 (座学) | 平常考查 中間考查 (5月中旬) 学期末考查 (6月下旬) |
| 9 10 11 12 | スキマが育む都市の緑と 生命のつながり 鍋洗いの日々 美しさの発見 | ・都市部のスキマに植物が生える理由について考え、生態系の果たす役割について知る。 ・働く人の思いを理解し、社会の中で生きる自分の将来について考える。 ・知識の世界を広げる「発見」と、心の世界を広げる「発見」を理解する | 一斉授業 (座学) | 平常考查 中間考查 (10月) 学期末考查 (11月下旬) |
| 1 2 3 | 真の自立とは 〈言葉と生活：書く〉 | ・「できる」「できない」「自立」「独立」について筆者の考えを理解し、現代における「大人になる」とはどういうことかを話し合う。 | 一斉授業 (座学) | 平常考查 学年末考查 (2月) |

3. 評価の観点と方法

| 知識・技能 【 】は評価方法 | 思考・判断・表現 【 】は評価方法 | 主体的な学び 【 】は評価方法 |
|--|--|---|
| 国語分野の基礎的・基本的な漢字・語句・語彙・文法・表現を理解し、生活全般に必要な知識を身に付けようとしている。 【定期考查・平常考查】 | 文章の意図を読み取り、要旨をまとめると共に自身の思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、「話す」「書く」といった表現する能力を身に付けている。 【定期考查・平常考查・レポート】 | 文章内容への関心を持ち、意欲的に「聞く」態度を持つ。国語を理解することへの向上を目指して、「話す」「書く」ことに主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度・提出物・発表】 |

4. 評価の規準

| 評価の観点 評価項目 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 比率(%) | その他 |
|---------------|-------|----------|---------------|-------|----------|
| 定期考查 | 24 | 18 | 0 | 42 | 学習態度の確認 |
| 平常考查 | 16 | 12 | 0 | 28 | 予習・復習の確認 |
| 提出物・授業態度 | 0 | 0 | 30 | 30 | |

| | | | | | | |
|----|----|-----|----|-----|---------------|-------|
| 教科 | 科目 | 学科 | 学年 | 単位数 | 使用教科書 | 使用副教材 |
| 公民 | 公共 | 全学科 | 2 | 2 | 高等学校 公共(帝国書院) | なし |

1 科目の目標と評価の観点

| | | | | | | |
|-----------|--|--|--|--|--|--|
| 目標 | 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 | | | | | |
| 評価の観点 | 知識・技能 | | 思考力・判断力・表現力 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 現代の諸課題を考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解する。資料から必要な情報を調べまとめる技能を身につける。 | | 現代社会の諸課題の解決に向けて、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら考えたことを議論する力を養う。 | | よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 | |
| | 定期考査 平常考査 課題プリント 等 | | 定期考査 平常考査 課題プリント 等 | | 平常課題 夏課題 授業態度・発表 等 | |
| 評価の方法・割合等 | 4割 | | 3割 | | 3割 | |

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

| 学習内容 | | 月 | 観点別評価基準等 | | |
|--------|--------------------|-------------|---|--|---|
| | | | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 第1部 | 1節 青年期と社会参画 | 4 | 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。 | 他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 | 公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| 第1章 | 2節 宗教・思想・伝統社会と文化 | 5 | 宗教が人々に与えているものを理解するために必要な知識を理解し身に付けている。 | 人々の生活と宗教の関わりの資料を収集し、宗教が人々の生活にもたらすものについて思考し、その内容をわかりやすく表現している。 | 宗教や日本の伝統文化について積極的に調べている。 |
| 第1部第2章 | 1節 倫理的な見方・考え方 | | 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 | 思考実験など通して、人間としてのあり方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 | 様々な思想について積極的に学ぼうとしている。 |
| 第1部第3章 | 第1節 社会の基本原則と憲法の考え方 | 6 7 9 | 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について日本国憲法を踏まえて理解している。 | 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 | 公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| 第2部第1章 | 1節 法の意義と司法参加 | 10 11 | 法に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。 | 自立した法的主体として解決が求められる具体的な主題について、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 | 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。 |
| 第2部第2章 | 1節 民主社会と政治参加 | 12 | 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることについて理解している。 | 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 | 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。 |

| | | | | | |
|--------------------------------|-----------------------|---|---|--|---|
| | 2 節 国際政治の動向と 平和の追求 | 1 | よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 | 自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 | 我が国の安全保障と防衛, 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。 |
| 第 2 部 第 3 章 | 1 節 市場経済のしくみ | 2 | 市場のしくみや金融、財政のしくみについて理解している。 | 自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 | 市場経済の機能と限界, 金融の働き 財政及び租税の役割などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | 2 節 豊かな社会の実現 | | 豊かな社会実現のためのしくみや制度について理解している。 | 豊かな社会の実現に向けて、様々な資料をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。 | 職業選択, 雇用と労働問題, 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。 |
| | 3 節 国際経済の動向と 格差の是正 | 3 | 国際経済の仕組みについて理解している。 | 国際経済の仕組みについて多面的・多角的に考察し、表現している。 | 経済のグローバル化と相互依存関係の深まり (国際社会における貧困や格差の問題を含む) などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。 |

| 教科 | 科目 | 学科 | 学年 | 単位数 | 使用教科書 | 使用副教材 |
|----|-----|-----|----|-----|---------------|-------------------|
| 数学 | 数学Ⅰ | 全学科 | 2 | 3 | 最新 数学Ⅰ (数研出版) | パラレルノート数学Ⅰ (数研出版) |

1 科目の目標と評価の観点

| 目標 | 数と式や2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 | | | | | |
|-----------|---|--|--|--|--|--|
| 評価の観点 | 知識・技能 | | 思考力・判断力・表現力 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 図形と計量、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | | 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 | | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 | |
| 評価の方法・割合等 | 定期考査 平常考査 課題プリント 等 | | 定期考査 平常考査 課題プリント 等 | | 平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等 | |
| | 4割 | | 3割 | | 3割 | |

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

| 学習内容 | | 月 | 観点別評価基準等 | | |
|---------------------------|---------------------|---|---|--|--|
| | | | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 第3章 第2節 2次方程式と2次不等式 | 10. 2次方程式 | 4 | ○因数分解や解の公式を用いて、2次方程式を解くことができる。 ○2次方程式は、因数分解による解法が難しい場合に、解の公式を「利用すれば、必ず解を求められることを理解している」。 ○2次方程式の解の個数が判別式 $D=b^2-4ac$ の符号によって決まることを理解している。 ○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を、判別式 $D=b^2-4ac$ の符号から求めることができる。 | ○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 | ○2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。 |
| | 11. 2次関数のグラフとx軸の共有点 | | ○2次関数のグラフとx軸との共有点のx座標を求めることができる。 ○2次関数のグラフと、2次方程式の関係を理解している。 ○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の値から考察できる。 ○2次関数のグラフとx軸の位置関係の条件を $D=b^2-4ac$ の符号から求めることができる。 | ○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の値から考察できる。 | ○2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。 |
| | 12. 2次不等式 | 5 | ○2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く方法を理解し、2次不等式を解くことができる。 | ○2次関数のグラフ、2次方程式、2次不等式を関連づけて考えることができる。 | ○1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。 |
| | 13. 2次不等式の利用 | | | | ○身近な問題を、2次不等式を用いて解決しようとする。 |
| 第4章 第1節 三角比 | 1. 鋭角の三角比 | 6 | ○三角比は、直角三角形の辺の比であることを理解している。 ○直角三角形において $\sin A$ 、 $\cos A$ 、 $\tan A$ の値を求めることができる。 ○三角比の表を用いて、三角比の値や角を調べることができる。 | ○三角比の値が角の大きさによって定まることを理解している。 | |
| | 2. 三角比の利用 | | ○三角比を使って、距離や高さを求めることができる。 | ○直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見るることができる。 | ○直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとし、具体的な事象を三角比の問題として見るることができる。 |
| | 3. 三角比の相互関係 | | ○三角比の相互関係を用いて、三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。 ○ $90^\circ - A$ の三角比の公式を利用できる。 | ○ $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ を三平方の定理として、とらえることができる。 | ○三角比の相互関係を調べようとする。 |

| | | | | | |
|------------------|---------------------|----|---|--|---|
| | 4. 三角比の拡張 | 7 | <p>○鈍角の三角比の値を求めることができる。</p> <p>○鈍角も含めて三角比の相互関係を用いて、三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。</p> <p>○$180^\circ - \theta$の公式を利用できる。</p> | ○座標を用いた鈍角の三角比の定義を理解している。 | ○三角比の相互関係が鈍角のときも成り立つことを調べようとする。 |
| | 5. 三角比が与えられたときの角、研究 | | ○座標を用いて、 θ の三角比の値から θ を求めることができる。 | ○直線の傾きと正接の関係を考察することができる。 | ○ θ の三角比が与えられたときに θ を求める際、図を積極的に利用しようとする。 |
| | 節末問題 | 9 | | | |
| 第2節 正弦定理・余弦定理 | 6. 正弦定理 | | <p>○正弦定理における$A=B=C=D$の関係を適切に処理できる。</p> <p>○正弦定理を用いて三角形の外接円の半径や辺の長さを求めることができる。</p> | | ○正弦定理の図形的意味を考察する。 |
| | 7. 余弦定理 | | ○余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 | | ○余弦定理の図形的意味を考察する。 |
| | 8. 三角形の面積 | | <p>○2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。</p> <p>○3辺の長さが与えられた三角形の面積を求めることができる。</p> | ○三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。 | |
| | 9. 図形の計量 | 10 | <p>○四角形を対角線で2つの三角形に分割して、面積を求めることができる。</p> <p>○正弦定理や余弦定理を用いて、測量問題が解決できる。</p> | ○正弦定理や余弦定理を用いて、測量問題が解決できる。 | ○日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。 |
| | 節末問題、発展 | | ○ヘロンの公式を使って、三角形の面積を求めることができる。 | | |
| | 章末問題 | | | | |
| 第5章 データの分析 | 1. データの整理 | 11 | <p>○度数分布表について理解し、度数分布表からデータの特徴を読み取ることができる。</p> <p>○データを度数分布表に整理することができる。まら、度数分布表をヒストグラムで表すことができる。</p> | | ○データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 |
| | 2. データの代表値 | | ○平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 | ○データの分布の仕方によっては、代表値として平均値を用いることが必ずしも適切ではないことを理解している。 | ○身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。 |
| | 3. データの散らばり | 12 | <p>○範囲の定義やその意味を理解し、それを求められる。</p> <p>○四分位数の定義を理解し、それを求めることができる。</p> <p>○四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求めることができる。</p> <p>○データの分布と箱ひげ図の関係について理解している。</p> <p>○箱ひげ図をかくことができる。</p> <p>○データの中のある値が外れ値であるかどうかを判断できる。</p> <p>○偏差、分散、標準偏差の定義とその意味を理解している。</p> <p>○分散、標準偏差に関する公式を用いて、これらを求めることができる。</p> | <p>○範囲を求め、データの散らばり具合を比較することができる。</p> <p>○四分位範囲を求め、データの散らばり具合を比較することができる。</p> <p>○箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。</p> <p>○外れ値を見いだす意義を理解している。</p> <p>○標準偏差によって、データの平均値からの散らばり具合を比較することができる。</p> | ○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。 |
| | 4. データの相関、コラム | 1 | ○散布図、相関表を作成することができる。 | ○散布図、相関表を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。 | ○相関と因果関係について、興味・関心をもつ。 |
| | 5. 相関係数 | | ○相関係数の定義とその意味を理解し、定義に従ってそれを求めることができる。 | ○相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解している。 | ○相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。 |
| | 6. 分割表、研究 | 2 | ○分割表の意味を理解し、数値の割合を計算して新たな表を作成することができる。 | | ○問題の解決や改善を図るために、現状のデータの分布を望ましいと考える方向に変えるための条件や改善策を、コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして探ろうとする。 |
| | 7. 仮説検定の考え方 | 3 | ○仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。 | ○不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。 | ○身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。 |

令和7年度 化学基礎 シラバス

| 対象教科・科目 | 単位数 | 学年・学級 |
|------------|------------------------------------|-----------------|
| 化学基礎 | 2単位 | 2年畜産科学科，2年食品化学科 |
| 使用教科書・副教材等 | 東京書籍「新編化学基礎」（化基 702），ニューサポート新編化学基礎 | |

1 学習の目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法等

| 学期 | 月 | 学習内容 | 学習活動 | 考 査 範 囲 | 評価の方法 | | | |
|-------------------|---|-------------------------------|---|--|-----------------------|-------------|-------------|---|
| | | | | | 知 4 割 | 思 3 割 | 主 3 割 | |
| 1 学 期 | 4 | 1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か (2h) | | | | | | |
| | | 化学とは何か | ・2種類の物質を区別する方法を考え、実際に分離する。 ・物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。 | | ○ ○ | ○ ○ | ○ | |
| | 5 | 1編 化学と人間生活 2章 物質の成分と構成元素 (8h) | | | 1 学 期 中 間 | | | |
| | | 1節 物質の成分 (3h) | ・混合物から成分を分離する方法があり、物質の性質によるものであることを理解する。 ・混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を選択できる。 | ○ ○ | | ○ | ○ | |
| | | 2節 物質の構成元素 (3h) | ・物質を構成する元素は、約120種類あることを知る。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、同素体があることを知る。 | ○ | | ○ | ○ | |
| | | 3節 物質の三態 (2h) | ・物質には三態があり、それぞれ構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化によって体積がどのように変化するか、粒子のふるまいと関係について考察する。 | ○ | | ○ | ○ | |
| | 5 | 2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表 (5h) | | | 1 学 期 期 末 | | | |
| | | 1節 原子の構造 (2h) | ・原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 | ○ | | ○ | ○ | |
| 6 | | 2節 電子配置と周期表 (3h) | ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 | ○ | | ○ | ○ | |
| | 7 | 2編 物質の構成 2章 化学結合 (14h) | | | | | | |
| | | 1節 イオンとイオン結合 (4h) | ・身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 | ○ | | ○ | ○ | |
| | | 2節 分子と共有結合 (6h) | ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 | ○ ○ | | ○ | ○ | |
| | | 3節 金属と金属結合 (2h) | ・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 | ○ ○ | | | | |
| 2 学 期 | 9 | 3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 (10h) | | | 2 学 期 中 間 | | | |
| | | 1節 原子量・分子量・式量 (2h) | ・原子1個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 | ○ ○ | | ○ | ○ | |
| | | 2節 物質量 (2h) | ・物質量とその単位の mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 | ○ ○ | | ○ | ○ | |
| | | 3節 溶液の濃度 (2h) | ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 | ○ | | ○ | ○ | |
| | | 10 | 4節 化学反応の表し方 (2h) | ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 | | ○ | | |
| | | 5節 化学反応の表す量的関係 (2h) | ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・銅の酸化の実験から、質量の関係を見いだして考察する。 | ○ | | ○ ○ | ○ | |
| | 11 | 3編 物質の変化 2章 酸と塩基 (10h) | | | 2 学 期 期 末 | | | |
| | | 1節 酸と塩基 (3h) | ・アレーニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 | ○ ○ | | ○ | ○ | |
| | | 2節 水素イオン濃度とpH (3h) | ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pHでも表せることを理解する。 | ○ ○ | | ○ | ○ | |
| | | 12 | 3節 中和反応と塩の生成 (2h) | ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 | | ○ ○ | ○ | ○ |
| | | 4節 中和滴定 (2h) | ・中和の条件は、酸から生じる H ⁺ と塩基から生じる OH ⁻ が等しくなることだとわかる。 | ○ | | ○ | ○ | |
| | | 3 学 期 | 1 | 3編 物質の変化 3章 酸化還元反応 (14h) | | | 学 年 末 | |
| 1節 酸化と還元 (3h) | ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 2節 酸化剤と還元剤 (5h) | ・代表的な酸化剤、還元剤は過マンガン酸カリウムや過酸化水素などであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 | | | ○ ○ | ○ | ○ | | |
| 3節 金属の酸化還元反応 (2h) | ・金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 2 | | | | | | | | |

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

| | | | | | |
|--------|---------------|-----|-----|-------|--------|
| 教科(科目) | 体育 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科 | 全学科2学年 |
| 使用教科書 | なし | | | | |
| 副教材等 | アクティブスポーツ2024 | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-----------|---|
| 科目の特徴 | 体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらす、心身両面の健康の保持増進を促す。 |
| 学習の到達目標 | 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 |
| 取得可能な資格 | 特記なし |
| 授業を受ける心構え | 欠席や忘れ物をする事なく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある） |

2. 学習指導計画

| 月 | 学習内容(目次の項目) | 学習活動・ねらい | 実習・演習 | その他・考査 |
|----|-------------|---|---------------|---------------------------------|
| 4 | 体づくり運動 | ○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める。 | 一斉・グループ 個別 | ラジオ体操 水泳 球技 補習(水泳) |
| 5 | 集団行動、ラジオ体操 | ○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ。 | | |
| 6 | 水泳・球技選択 | ○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ。 | | |
| 7 | | ○仲間との協力とともに技能を高める。 | | |
| 9 | 球技選択 | ○仲間との協力とともに技能を高める。 | 一斉・グループ 個別 | 球技 陸上競技 補習(長距離) ロードレース |
| 10 | 体育理論 | ○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。 | | |
| 11 | 陸上競技(長距離走) | ○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。 | | |
| 12 | 球技選択 | | | |
| 1 | 体づくり運動 | ○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。 | 一斉・グループ 個別 | 球技 陸上競技 |
| 2 | 球技選択 | ○活動計画を立て、実践する。 | | |
| 3 | 体育理論 | | | |

3. 評価の観点と方法

| 知識・技能 【 】は評価方法 | 思考・判断・表現 【 】は評価方法 | 主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法 |
|---|---|--|
| 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】 | 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】 |

4. 評価の規準

| 評価の観点 評価項目 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 比率(%) | その他 |
|---------------|-------|----------|---------------|-------|-----|
| 授業観察・テスト | 40 | 10 | 10 | 60 | |
| 提出物等 | | 10 | | 10 | |
| 授業態度・発表 | | 10 | 10 | 20 | |
| 出席状況 | | | 10 | 10 | |
| | | | | 100% | |

科目「保健」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

| | | | | | |
|--------|----------------|-----|-----|-------|--------|
| 教科(科目) | 保健 | 単位数 | 1単位 | 学年・学科 | 全学科2学年 |
| 使用教科書 | 現代高等保健体育(大修館) | | | | |
| 副教材等 | 現代高等保健ノート(大修館) | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-----------|--|
| 科目の特徴 | 健康に関する興味関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用して思考力、判断力を育成する。 |
| 学習の到達目標 | 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力が身につく。 |
| 取得可能な資格 | 特記なし |
| 授業を受ける心構え | 主体的に授業に参加し、定期考査を受ける。提出物を必ず提出する。 |

2. 学習指導計画

| 月 | 学習内容(目次の項目) | 学習活動・ねらい | 実習・演習 | その他・考査 |
|---------------------|--|--|-----------------------|-------------------|
| 4 5 6 7 | 健康の考え方 生活習慣病などの予防と回復 | ○健康の考え方と成り立ち、疾病構造の変化 ○生活習慣病とその予防、がんの予防 ○食事、運動等と健康 | 一斉授業 グループワーク | 平常考査 学期末考査 |
| 9 10 11 12 | 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 精神疾患の予防と回復 現代の感染症とその予防 | ○喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ○精神疾患の特徴、予防 ○健康に関する意思決定、行動選択 ○現代感染症と予防 | 一斉授業 グループワーク | 平常考査 学期末考査 |
| 1 2 3 | 安全な社会作り 応急手当 | ○事故の現状と発生要因 ○交通安全 ○応急手当の意義とその基本 ○日常的な応急手当○心肺蘇生法とその原理 | 一斉授業 グループワーク 実習 | 平常考査 学年末考査 |

3. 評価の観点と方法

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習する態度 |
|----------|---|--|--|
| 評価の観点 | 生涯を通じると健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 | 生涯を通じる健康、社会生活と健康について課題の解決を目指して総合的に考え、判断しそれらをあらわしている。 | 生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 |
| 評価の方法割合等 | ・定期考査・平常考査 ・提出物・発表 | ・定期考査 ・提出物 ・授業状況 ・平常考査 ・発表 | ・定期考査 ・平常考査 ・授業態度・出席状況 |
| | 4割 | 3割 | 3割 |

| | | | | | |
|-------|--|-----|-----|-------|--------|
| 科目 | 英語コミュニケーションⅡ | 単位数 | 2単位 | 学科・学年 | 全学科 2年 |
| 使用教科書 | COMET English Communication Ⅱ (数研出版) | | | | |
| 副教材等 | COMET基本文法定着ドリル①②(数研出版)、チャンクで英単語Basic、ドリルノート①②(三省堂) | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-----------|--|
| 科目の特徴 | 積み重ねの教科であり、中学校の基礎から高校の基礎につなぐ。 |
| 学習の到達目標 | 1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。 |
| 取得できる資格 | 実用英語技能検定 |
| 授業を受ける心構え | 授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをしっかりと仕上げ、提出する。 |

2. 計画 観点別評価：【主体的に学習に取り組む態度】 (=【主】)、【知識・技能】、【思考・判断・表現】

| 月 | 学習内容 | 学習活動・ねらい | 言語材料・言語活動 | その他・ 考查 |
|-------------|---|---|--|---------------|
| 4 5 | Lesson 1 Places Worth Visiting | ・ダイキとエラの旅先での体験について本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・S+V+O+to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・行ってみたい場所を発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 | ・関連する語句 ・want+人+to do ・行ってみたい場所について英語で書く・発表する | 平常考查 中間考查 |
| 6 7 | Lesson2 Iwago Mitsuaki パフォーマンステスト | ・岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・疑問詞+to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・学習した語句を使って自分の意見を話し、書くことができる。【思・判・表】 | ・関連する語句 ・疑問詞+to 不定詞 ・お気に入りの写真について英語で自分の意見を書いたり、話したりする。 | 平常考查 期末考查 |
| 9 10 | Lesson 3 The Haka | ・ハカについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・分詞を用いて、自分の周りについて伝え合う技能を身につける。【知識・技能】 ・興味のある世界の文化について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】 | ・関連する語句 ・分詞 ・興味のある世界の文化について書いたり、話したりする。 | 平常考查 中間考查 |
| 11 12 | Lesson 4 Digital Detox パフォーマンステスト | ・デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・if 節・疑問詞節の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の気持ちや考えを伝えるために、if 節や疑問詞節を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりできる。【思・判・表】 | ・関連する語句 ・if 節・疑問詞節 ・デジタルデトックスについて意見を書いたり、発表したりする。 | 平常考查 期末考查 |
| 1 2 3 | Lesson 5 Goal Setting パフォーマンステスト Lesson 6 The High School Hair Salon | ・目標設定において重要なことについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・seem + to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の目標について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 ・高校生美容室の活動内容や部員の思いについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・助動詞+have+過去分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・就きたい職業について情報や考えを整理して書いている。 | ・seem + to 不定詞 ・自分が立てた目標についてやり取りする。 ・助動詞+have+過去分詞 ・就きたい職業について発表する。 | 平常考查 学年末考查 |

3. 評価の観点と方法

| 知識・技能 【 】は評価方法 | 思考・判断・表現 【 】は評価方法 | 主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法 |
|--|--|--|
| ・基本的な単語や語句の意味を理解し正しく発音できる。 ・例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できる。 【授業中の態度】 【定期考查6割・平常考查4割】 【パフォーマンステスト】 【提出物】 | ・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できる。 【授業中の態度】 【定期考查6割・平常考查4割】 【パフォーマンステスト】 【提出物】 | ・授業中に積極的に質問したり、答えたりしようとしている。 ・他の生徒の発表を聞いたり、発表したりしようとしている。 ・提出物の期限を守って提出している。 【授業中の態度】 【出席状況】 【パフォーマンステスト】 【提出物】 |
| 4割 | 3割 | 3割 |

科目「家庭総合」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

| | | | | | |
|--------|---------------------|-----|-----|-------|---------------------|
| 教科(科目) | 家庭総合 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科 | 2学年・農業、園芸、畜産科学、食品化学 |
| 使用教科書 | 家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍） | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-----------|--|
| 科目の特徴 | 家族や家庭の生活の営みを総合的にとらえ、生活をマネジメントする能力を育てる。 |
| 学習の到達目標 | 生活のなかで課題を見いだし、それを解決するための手立てを考え実践に繋げる。 |
| 取得可能な資格 | なし |
| 授業を受ける心構え | 社会の動きに関心を持ち、把握するとともに、生活情報を収集し、生活課題に取り組む。 |

2. 学習指導計画

| 月 | 学習内容(目次の項目) | 学習活動・ねらい | 実習・演習 | その他・考査 |
|---------------------|--|--|-----------------------------|-----------------------|
| 4 5 6 7 | 【子どもの発達と保育・福祉】 ・子どもの発達と生活 ・親の役割と子育て支援 【高齢者の生活と福祉】 ・高齢者の生活と課題 | ・子どもの心身の発達を理解する。 ・親の役割や子育て支援制度について理解して考える。 ・高齢者の心身の特徴を理解し、高齢者や家族が抱える課題を知る。 | ・調理実習 ・絵本の読み聞かせ ・調理実習 | レポート 小テスト 学期末考査 |
| 9 10 11 12 | ・高齢社会の福祉 【共生社会における地域や家族】 【食べる】 ・食品と栄養 | ・福祉制度を理解し、高齢社会について考える。 ・地域福祉と社会保障を理解する。 ・生活のリスクについて考える。 ・栄養素のはたらきを理解する。 | ・一斉授業 ・調理実習 | レポート 小テスト 学期末考査 |
| 1 2 3 | ・食品の衛生と安全 ・これからの食生活 | ・正しい食品の選択ができるようになる。 ・基礎的な調理技術を身につける。 ・持続可能な食生活について考える。 | ・一斉授業 ・調理実習 | レポート 小テスト 学年末考査 |

3. 評価の観点と方法

| 知識・技能 【 】は評価方法 | 思考・判断・表現 【 】は評価方法 | 主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法 |
|--|---|--|
| 生活を主体的に営むために必要な保育および高齢者福祉・食生活などについて科学的に理解しているとともに、それらにかかる技能を体験的・総合的に身につけている。 | 生涯を見通して保育および高齢者福祉・食生活における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 | 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や地域社会の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 |
| 【定期考査・小テスト】 | 【レポート、課題プリントなど】 | 【レポート、授業態度等】 |
| 4割 | 3割 | 3割 |

科目「総合実習」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

| | | | | | |
|--------|---------------|-----|-----|-------|-----------|
| 教科(科目) | 総合実習 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科 | 2学年 食品化学科 |
| 使用教科書 | 食品製造(実教出版) | | | | |
| 副教材等 | 菓子検定公式問題集(3級) | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-----------|--|
| 科目の特徴 | 学校農業クラブ活動・プロジェクト学習や各分野(食品製造・食品化学)で取り扱う食品に関する学習を通して、総合的な知識や実践的な役割を習得させる。特に生産・加工・利用と作業の順序、組み合わせとその管理および技術の役割について取り上げ、学校農業クラブ活動・プロジェクト学習の充実に繋がるように取り組む。 |
| 学習の到達目標 | (1) 学校農業クラブ活動・プロジェクト学習等で取り扱う食品について、総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 学校農業クラブ活動やプロジェクト学習、食品産業に関連する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 学校農業クラブ活動・プロジェクト学習や食品産業に関わる管理につながる知識や技術が身につくよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
| 取得可能な資格 | 菓子検定(3級、2級) |
| 授業を受ける心構え | 積極的な姿勢で臨む。正しく理解し、反復する。 問題に向き合い、1つ1つ課題をクリアしていく態度で臨む。 |

2. 学習指導計画

| 月 | 学習内容(目次の項目) | 学習活動・ねらい | 実習・演習 | その他・考查 |
|---------------------|--|---|---|-------------------|
| 4 5 6 7 | ○学校農業クラブ活動・プロジェクト学習について ○洋菓子や和菓子の歴史 ○製造工程の特徴について | ○学校農業クラブ・プロジェクト学習について知る。 ○菓子の発祥や日本への来歴を理解する。 ○洋菓子や和菓子の製造方法やその違いを理解する。 | ①一斉授業(座学) ②自主学習(演習) ③グループ学習(協働) | 中間考查 学期末考查 |
| 9 10 11 12 | ○材料の特徴について ○菓子製造に関連する課題調査 ○菓子検定試験 | ○菓子作りに必要な材料の特徴や活用方法を理解する。 ○菓子製造に関する課題を発見し、現況を理解する。 | ※各学習内容で上記 ①～③を実施し、練習問題や模試を随時解かせる。 | 中間考查 学期末考查 |
| 1 2 3 | ○菓子製造の課題調査、調べ学習、発表会の実施 | ○意見交換を行い、課題解決能力を育む。 | ○一斉授業(座学) ○グループ学習(協働) | 学年末考查 |

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

| 知識・技術 (4割) | 思考・判断・表現 (3割) | 主体的に学習に取り組む態度 (3割) |
|--|---|---|
| 学校農業クラブ活動・プロジェクト学習等で取り扱う食品について体系的・系統的に理解しているとともに関連する技術を身に付けている。 【定期考查・平常考查】 | 学校農業クラブ活動・プロジェクト学習、食品産業に関連する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 【定期考查、平常考查、提出物、授業態度】 | 学校農業クラブ活動・プロジェクト学習、食品産業に関わる管理につながる知識や技術が身につくよう自ら学び、知識と技術が農業の各分野で活用できるよう農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【提出物、授業態度、出席状況】 |

科目「農業と情報」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

| | | | | | |
|--------|------------------------|-----|-----|-------|-----------|
| 教科(科目) | 農業と情報 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科 | 2学年 食品化学科 |
| 使用教科書 | 農業と情報(実教) | | | | |
| 副教材等 | 日本情報処理検定テキスト、HP掲載内容の引用 | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-----------|---|
| 科目の特徴 | 科学技術の進展、グローバル化に伴う高度情報通信社会の特質、情報通信ネットワークとデータとの相関関係や、これらを農業の各分野における情報の収集、整理、調査・分析し、活用するための資質と能力を養い、職業人として情報社会に主体的に参画する態度を育成する。 |
| 学習の到達目標 | (1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
| 取得可能な資格 | 日検文書デザイン検定3級 |
| 授業を受ける心構え | 説明をよく聞き、丁寧に取り組むこと。積極的に参加し社会の変化に気付けるようになる。 |

2. 学習指導計画

| 月 | 学習内容(目次の項目) | 学習活動・ねらい | 実習・演習 | その他・考查 |
|---------------------|--|---|--|---|
| 4 5 6 7 | オリエンテーション 第1章私たちの生活と農業の情報化 ○情報とメディア ○情報とモラル ○情報とセキュリティ ○情報社会における私たちの生活 ●文書デザイン検定演習 | ・PC室利用方法の説明(入室、電源、ログイン等) ・タッチタイピングの習得 【情報の残存性・複製性・伝播性、情報の匿名性・信憑性・信頼性】 ・メディアの特徴と種類を理解する。 ・情報社会のモラルを守る心構えを身につける。 ・情報社会の危険への対応の仕方を身につける。 ・農業に関するデータと情報、意思決定の過程を理解する。 ●Wordの基礎基本を理解する。 文書デザイン検定3級のマスター ・情報の特徴と性質を理解する。 | ・タイピング演習 ・一斉座学 ・SNSトラブル等を題材にグループで対策等を考える ・文書デザイン検定の練習 | 平常考查 タイピング記録 【思・判・表】 小テスト 【知・技】 中間考查 学期末考查 【知・技、思・判・表】 |
| 9 10 11 12 | 第2章社会を支えるコンピュータ ●文書デザイン検定演習 ○コンピュータのしくみ ○データや情報の表現 ○情報通信ネットワーク ○インターネットのしくみ | ・ハードウェアとソフトウェアの概要を理解する。 ・アナログとデジタルについて理解する。 ・2進数について理解する。 ・データや情報の種類とその表現方法を理解する。 Wordを使って栽培計画を立てる。 ●文書デザイン検定3級 受験(12月) ・情報通信ネットワークの概要、しくみと特徴を理解する。 ・インターネットの概要を理解する・情報検索の方法を理解する。 | ・一斉演習 ・タイピング演習 ・一斉座学 | 平常考查 タイピング記録 【思・判・表】 小テスト 【知・技】 中間考查 学期末考查 【知・技、思・判・表】 |
| 1 2 3 | 第3章コミュニケーションと情報デザイン ○情報表現のためのソフトウェア ○データの集計と視覚化 | ・正確な情報収集と記録の重要性を理解する。 ・情報を活用するソフトウェアについて理解する。 ・表計算ソフトウェアを利用してデータの処理とグラフ作成等の視覚化ができる。 | ・タイピング演習 ・一斉座学 | 平常考查 タイピング記録 【思・判・表】 小テスト 【知・技】 学年末考查 【知・技、思・判・表】 |

3. 評価の観点と方法【 】は評価方法

| 知識・技術 (3割) | 思考・判断・表現 (3割) | 主体的に学習に取り組む態度 (4割) |
|--|--|--|
| 農業と情報について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【平常考查・定期考查】 | 農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 【平常・定期考查、提出物、授業態度】 | 農業と情報について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【授業態度、レポート】 |

科目「食品製造」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

| | | | | | |
|--------|-----------------------------------|-----|-----|-------|-------------|
| 教科(科目) | 食品製造 | 単位数 | 3単位 | 学年・学科 | 2 学年 食品化学 科 |
| 使用教科書 | 実教出版「食品製造」 | | | | |
| 副教材等 | 自作プリント、HP等引用及びクロムブック利用による資料もあり得る。 | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-----------|--|
| 科目の特徴 | 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |
| 学習の到達目標 | <p>(1) 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 食品製造について特質を理解し、農業の各分野で利用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> |
| 取得可能な資格 | ボイラー取扱者技能講習修了 |
| 授業を受ける心構え | <p>①教科書、ノート、ファイルの準備を毎時徹底すること</p> <p>②食品製造者(生徒)としてすべてに責任と自覚を持って実習に望むこと</p> <p>③報告書や記録を必ず行い、求められた提出物を確実に出すこと</p> <p>④体調管理・時間厳守・服装・態度を整え、前向きな気持ちで授業に臨むこと</p> |

2. 学習指導計画

| 月 | 学習内容(目次の項目) | 学習活動・ねらい | 実習・演習 | その他・考査 |
|---------------------|---|---|---|---|
| 4 5 6 7 | 第6章 農産物の加工 第3章 食品の変質と貯蔵 第7章 畜産物の加工 | <ul style="list-style-type: none"> ・果実の特徴や加工原理を理解する。 ・果実を利用した加工食品のつくりかたを習得する。 ・穀類の種類とその特徴、加工原理を理解する。 ・穀類を利用した加工食品のつくりかたを習得する。 ・食品の変質する原因とその様子を理解する。 ・食品の各種貯蔵法の原理とその方法を学ぶ。 ・牛乳の成分の特徴と加工特性を知る。 ・乳製品の特性と加工原理を理解する。 ・乳製品の製造に必要な知識と技術を習得する。 | 一斉授業(座学) グループ学習 果実の加工 ジャムの製造 小麦粉の加工 米の加工 牛乳の加工 酸乳飲料の製造 | 平常考査 学習観点確認 【知・技】 【思・判・表】 ①中間考査 小テスト ②学期末考査 小テスト |
| 9 10 11 12 | 第6章 農産物の加工 第7章 畜産物の加工 第4章 食品加工と食品衛生 | <ul style="list-style-type: none"> ・穀類の種類とその特徴、加工原理を理解する。 ・穀類を利用した加工食品のつくりかたを習得する。 ・肉の種類と、その処理方法、および原料肉の選び方を学ぶ。 ・肉の加工特性を知り、肉加工品との関係を理解する。 ・肉製品の製造に必要な技術を習得する。 ・食の安全を守るための食品衛生の重要性を理解する。 ・食品衛生行政、法律を知る。 | 一斉授業(座学) グループ学習 小麦粉の加工 肉加工品の製造 鶏卵の加工 | 平常考査 学習観点確認 【知・技】 【思・判・表】 ①中間考査 小テスト ②学期末考査 小テスト |

| | | | | |
|-------------|----------------------------|--|-------------------------------------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・食中毒の種類や予防するための知識を得る。 ・有害物質や感染症、寄生虫症、アレルギー反応について理解する。 ・食品添加物の種類と用途、規格基準を知る。 ・食品添加物の安全に関する知識を得る。 | | |
| 1 2 3 | 第6章 農産物の加工 プロジェクト学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・おもな豆類・種実類の種類とその利用について学ぶ。 ・豆腐の製造法とその加工品について学ぶ。 ・プロジェクトの進め方を復習する。 ・「食品製造」の学習の目的を理解する。 | 一斉授業(座学) グループ学習 豆類の加工 課題実習 | 平常考査 学習観点確認 【知・技】 【思・判・表】 ①学期末考査 小テスト |

3. 評価の観点と方法 ※【 】は評価方法

| 知識・技術 (3割) | 思考・判断・表現 (3割) | 主体的に学習に取り組む態度 (4割) |
|---|---|---|
| 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【平常考査（提出物、小テスト）、定期考査】 | 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとしている。 【平常考査（提出物、小テスト、授業態度・発表、ポートフォリオ）、定期考査】 | 食品製造について特質を理解し、農業の各分野で利用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 【平常考査（提出物、授業態度・発表、ポートフォリオ、自己・相互評価）】 |

科目「食品化学」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校生徒用

| | | | | | |
|--------|--|-----|-----|-------|----------|
| 教科(科目) | 食品化学 | 単位数 | 3単位 | 学科・学年 | 2年 食品化学科 |
| 使用教科書 | なし | | | | |
| 副教材等 | 食品化学(実教出版) 自作ワークシート、HP掲載内容の引用やクロムブックの利用も有り。 | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-------------|--|
| 【科目の特徴】 | 食品産業における食品化学の社会的役割を捉え、食品の成分分析や栄養的価値の評価と関連付けて考察するとともに、食品化学に関するプロジェクト学習などの、実践的・体験的な課題解決学習を通して、食品の成分分析や栄養的価値の評価に必要な資質・能力を育成する。 |
| 【学習の到達目標】 | (1)食品化学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)食品化学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)食品化学について食品の成分や栄養を理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
| 【取得できる資格】 | なし |
| 【授業を受ける心構え】 | ・教科書、ノート、ファイル等を準備し、意欲的に授業に参加すること(主体的な学び) ・実験は、指示をよく聞き協力して行い、観察・記録及び考察・評価を必ず行い、検印を受けること。また、ケガや事故を防止すること(思考判断表現)(知識技術) ・食品製造を支える基礎科目であることを理解し、食品化学の役割・食品製造への応用・課題について考えること(知識技術) |

2. 学習指導計画

| 月 | 学習内容 | 学習活動・ねらい | 実習・演習 | その他・考查 |
|---------------------|--|---|--|--|
| 4 5 6 7 | 第2章 食品の成分 (無機質・ビタミン) 第2章 食品の成分 (微量成分) 付章 食品化学実験の基礎 (酸度測定 :乳製品・食酢・果汁) | ・各食品成分の性質や特徴、構造について理解させる。 ・食品加工との関わりや働きについて理解させる。 ・食品成分分析の基礎操作の技術を身に付け、容量分析について理解させる。 | ・一斉授業(座学) ・グループ学習 ・グループ実験 無機質の定性実験 ビタミンの定性実験 中和滴定 (酸度測定) | 中間考查 小テスト① 実験操作評価① 学期末考查 |
| 9 10 11 12 | 第2章 食品の成分 (微量成分) 付章 食品化学実験の基礎 第4章 食品の成分分析 (塩分測定:味噌・醤油) (過酸化水素の定量) | ・各食品成分の性質や特徴、働きについて理解させる。 ・食品加工との関わりや働きについて理解させる。 ・食品成分分析の基礎操作の技術を身に付け、容量分析について理解させる。 | ・一斉授業(座学) ・グループ学習 ・グループ実験 沈殿滴定 (塩分測定) 酸化還元滴定 (ヨウ素滴定) | 中間考查 小テスト② 実験操作評価② 実験器具操作① 学期末考查 |
| 1 2 3 | 第4章 食品の成分分析 (水分:食品の水分含量) プロジェクト学習 | ・食品成分分析の基礎操作の技術を身に付け、容量分析について理解させる。 ・定量分析の原理と測定値の取り扱いについて学習する。 ・プロジェクト学習の進め方を身に付けさせる。 | ・一斉授業(座学) ・グループ学習 ・グループ実験 水分の定量 | 小テスト③ 学年末考查 実験操作評価③ 実験器具操作② |

3. 評価の観点と方法 ※【 】は評価方法

| 知識・技術 (3割) | 思考・判断・表現 (3割) | 主体的に学習に取り組む態度 (4割) |
|---|--|---|
| 食品化学について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【平常考查(小テスト、実験操作・器具操作評価)、定期考查】 | 食品化学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 【平常考查(提出物、小テスト、授業態度・発表ポートフォリオ:ファイル)、定期考查】 | 食品化学について食品の成分や栄養を理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【平常考查(提出物、授業態度・発表自己・相互評価)定期考查:次への意欲】 |

科目「食品微生物」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

| | | | | | |
|--------|--|-----|-----|-------|------------|
| 教科(科目) | 食品微生物 | 単位数 | 2単位 | 学年・学科 | 2学年 食品化学 科 |
| 使用教科書 | | | | | |
| 副教材等 | 実教出版「食品微生物」 ワークシート、HP等引用及びクロムブック利用による資料 | | | | |

1. 学習を始めるにあたって

| | |
|-------------|---|
| 【科目の特徴】 | 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品微生物の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |
| 【学習の到達目標】 | (1)食品微生物について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)食品微生物に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)食品微生物について特質を理解し、農業の各分野で利用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |
| 【取得可能な資格】 | |
| 【授業を受ける心構え】 | ・教科書、ノート等を忘れず準備すること(主体的な学び) ・実験は、協力して行い、観察・記録及び考察・評価を必ず行うこと(思考・判断) ・食品製造を支える基礎科目であり、食品微生物の役割・食品製造への応用について考えること(知識・技能) ・レポートや記録を必ず行い、提出物を出すこと(主体的な学び) |

2. 学習指導計画

| 月 | 学習内容(目次の項目) | 学習活動・ねらい | 実習・演習 | その他・考査 |
|---------------------|--|--|--|---|
| 4 5 6 7 | 人間生活と微生物 微生物の種類と特徴(かび) 微生物の観察と扱い方 微生物の観察(顕微鏡観察)(顕微鏡・大きさ・菌数測定) | ○微生物の内容及びプロジェクト学習の内容及び学習方法 ○微生物の種類と特徴に関する内容(学習法) ○微生物実験の基本操作に関する内容(扱い方) ・実験器具・機器の操作(無菌操作)・培地調整法 ・顕微鏡の操作(ドライースト使用)を知る。 ・微生物の分離、培養(性質や種類)を知る。 | 一斉授業(座学) グループ学習 グループ実験 顕微鏡観察 操作 培地調製操作 移植 | 平常考査 学習観点確認 【知・技】 【思・判・表】 ①中間考査 小テスト ②学期末考査 小テスト 実験操作評価① 実験器具操作① |
| 9 10 11 12 | 微生物の種類と特徴(酵母・細菌) かびの分離と培養 クエン酸生産かび 酵母の分離と培養 アルコール発酵酵母 細菌(納豆菌)の分離と培養 | ○微生物の分離と培養に関する内容及び取扱いを知る。 ○かびの分離操作・観察方法(スライド培養)生産物(クエン酸)の確認 ○酵母の分離操作・観察方法(染色法)生産物(二酸化炭素他)の確認 ○細菌(納豆菌)の分離操作・観察方法(染色法)生産物(粘質物質)の確認(定性反応) | 一斉授業(座学) グループ実験 スライド培養 単染色法 アイソルン発酵管 ガス発生実験 平板培養実験 グラム染色法 | 平常考査 学習観点確認 【知・技】 【思・判・表】 ①中間考査 小テスト ②学期末考査 小テスト 実験操作評価② 実験器具操作② |
| 1 2 3 | 微生物の種類と特徴(細菌・ウイルス) 細菌(乳酸菌)の分離と培養 微生物の生育環境 微生物の代謝と酵素 微生物の代謝と利用 | ○微生物の分離と培養に関する内容及び取扱いを知る。 ○乳酸菌の分離操作・観察・生産物の確認 ○微生物の生育環境と代謝に関する内容及び学習方法を知る。 栄養・生育と環境因子・増殖 アルコール発酵・有機酸発酵・アミノ酸発酵 | 一斉授業(座学) グループ実験 混釈法 中和滴定 一斉授業(座学) | 平常考査 学習観点確認 【知・技】 【思・判・表】 ①学期末考査 小テスト 実験操作評価③ 実験器具操作③ |

3. 評価の観点と方法 ※【 】は評価方法

| 知識・技術 (3割) | 思考・判断・表現 (3割) | 主体的に学習に取り組む態度 (4割) |
|---|--|---|
| 食品微生物について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【平常考査(小テスト、実験操作・器具操作評価)、定期考査】 | 食品微生物に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【平常考査(提出物、小テスト、授業態度・発表ポートフォリオ:ファイル)、定期考査】 | 食品微生物について特質を理解し、農業の各分野で利用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 【平常考査(提出物、授業態度・発表自己・相互評価)定期考査:次への意欲】 |